

声をあげよう

行動しよう

市民とつくる政治を



いぬい 紳一郎



小田 桐たかし



植田 和子



高橋 あきら

海岸に打ちあげられたプラスチックごみ



環境

「地球の危機、守るのは私たち」

甚大な被害を全国で拡大させる豪雨。気候変動・地球環境の悪化が原因です。流山市でも47公共施設で再生可能エネルギー100%の電力調達など取り組みが始まるいっぽう、大規模な森林伐採や開発も続いています。

様々な取り組みを広げる市民の共通の思いは、「地球を守るのは私たち」というもの。日本共産党は、市民からの手紙や活動を紹介し、温暖化ガスゼロを本気でめざすよう提案しました。

市議会では政府に対し、再生可能エネルギー電力目標を2030年60%、50年100%とすることや石炭火力発電は段階的に2050年までの廃止を求める陳情書を全会一致で採択し、政府への意見書を可決しました。

指定ごみ袋の強制 新法に逆行!?

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が今年6月、国会で可決、来年4月から施行されます。この新法は、プラスチックごみを削減し、製造から販売、使用後の各段階でプラ素材の使用抑制やリサイクルの強化を求めています。

にもかかわらず流山市では、プラスチック製の市独自指定ごみ袋を民間事業者へ新たに大量製造させ、市民に購入・使用を強制させる（今年10月から試行、来年4月義務化を予定）…新法に逆行しています。

すでに市場に出回り、各家庭にストックされている「透明もしくは半透明」のごみ袋を利活用し、最小限の家庭ごみを捨てる…今の「流山方式」を変える理由はありません、指定ごみ袋の強制は延期・中止すべきです。

一緒に「願い」 実現させよう

補聴器購入へ助成を

今、加齢性難聴者のための補聴器購入費補助制度を導入する自治体が増えていきます。「補助制度は考えていない」とする流山市ですが、市内で加齢性難聴者が増えていることは当局も認めました。また、「補聴器の使用は有益」「補聴器の有用性について学び取れるよう取り組んでいきたい」との部長答弁もありました。

熱中症対策いそげ

熱中症による死亡者数のうち81%が高齢者(2015年)。いまや、エアコンは贅品ではなく酷暑から命を守る生活必需品です。エアコン購入費助成制度を創設し、命を守る取り組みが全国で広がっています。

流山市は昨年度、市民と日本共産党の要請を受け、生活保護利用者への購入費・設置費の助成を実施。さらに対象者を拡大させるよう日本共産党は提案しています。

教育 「必要な先生がこない…」

教職員の未配置問題が深刻です。市内では、今年7月時点で19人も未配置に。「月を追う毎に、年度を重ねる毎に深刻化している」とし、「教職員の増員を県に要請する」と日本共産党の質問に市教委が答えました。

日本共産党も引き続き、一緒に声を上げます。

南流山中学校移転 「武道場・プール設置」を約束

東洋学園大学キャンパス跡地へR6年4月に移転・開設する南流山中学校。地域住民や保護者は「一方的な押し付け」と不満いっぱいです。日本共産党は、市当局に責任があることを認めさせつつ、移転先でさらにより良い教育環境の整備を提案。「武道場・プールを整備する」と市教委が議会で初めて言及しました。

通学路の安全はもとより、自転車通学を学校から1.4キロとすることや、駐輪場や観客席付きの体育館、旧大学図書館を南流山中学校の生徒や地域住民が優先利用できるなど解決すべき課題は残されています。ご一緒に声をあげましょう。

身近な要求実現



道路に張り出した危険な枝を伐採 (野々下4丁目) 高橋あきら



冠水対策 2ヶ年計画で実現へ (江戸川台福祉会館前) 植田和子



体育館スペース増築へ (八木北小学校) 小田桐たかし



公園側溝の壊れていたふたを 補修 (三輪野山) いぬい紳一郎